



《シリーズ ケアをひらく》

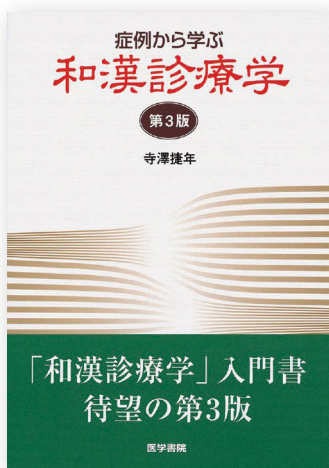
漢方水先案内

医学の東へ

津田篤太郎＝著

本体 2,000 円＋税／A5 判・238 頁／医学書院／2015

臨床の海で“シケ”に巻き込まれたら、教科書を見ればよい。では、原因がはっきりせず、成果もあがらない“ベタなぎ漂流”に追い込まれたら？ 最先端の臨床医がたどり着いたのは、〈漢方〉というキュアとケアの合流地点だった。病気の原因はさまざまでも、それに対抗する生体パターンは決まっている。ならば、生体をアシストするという方法があるじゃないか！ どんな時でも“アクションを起こせる医療者”になるための知的ガイド。



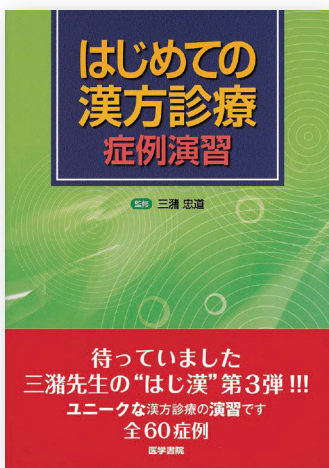
症例から学ぶ和漢診療学

第3版

寺澤捷年＝著

本体 4,600 円＋税／A5 判・404 頁／医学書院／2012

世界中で訳された、「和漢診療学」入門の定番書。東西の叡智を結集し、有効で安全な治療形成のために、現在行われている一般的な症例をベースに、日々蓄積される漢方薬のエビデンス情報を交えながら解説。まったく異なる漢方医学のパラダイムと西洋医学のパラダイムを理解し、漢方医学を適切に活用するための入門書。よりわかりやすく、より親しみやすく和漢診療学を学べる。



はじめての漢方診療 症例演習

三瀧忠道＝監修

本体 5,500 円＋税／B5 判・280 頁／医学書院／2011

『はじめての漢方診療 十五話』と『はじめての漢方診療ノート』に続く、実践編。実際の症例を問題形式で提示し、知識を臨床に応用するための参考となる大著。教科書用に脚色した記載ではないため、証（漢方における病態診断）を決定するための所見に矛盾や過不足が生じるという臨床の現実を伝えつつ、担当医による「処方決定までの思考過程」、「鑑別処方」や「コメント」などで解説する。